

令和5年度 奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校学校評価総括表(定時制課程)

【高等学校用】

年度	令和5年度(中期計画2年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	少数者での学習を通して、工業や商業の専門分野に関する知識と技能を身に付け、自分の可能性を広げようとする生徒の育成
年度重点目標	新教育課程に対応する教材や観点別による評価の工夫、改善に努め、また、BYODによる一人一台端末を活用した効果的な学習方法について研究、実践し、生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に向かう態度を育成する。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 他者への思いやりの心を持ち、多様な仲間とともに学校生活を送りたい生徒 2 日々の授業を大切に、部活動や生徒会活動、学校行事にも積極的に取り組む意欲のある生徒 3 工業や商業に興味を持ち、自らの進路実現に向けて取り組む意欲のある生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	本校では、確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と多様に化する社会に主体的に対応し得る能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。 1 生徒の実態に合わせて教材を精選し、基礎学力を定着させ、真剣に学習に取り組む意欲と態度を育てます。 2 工業や商業に関する専門性を高め、実社会で通用する資質・能力の習得を図ります。 3 少数者のメリットを生かし、実習や資格試験ではマンツーマンに近い形で丁寧に指導します。 4 学校行事や生徒会活動を通して、共に成長できる環境づくりに努めます。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 1 多様な他者と協働し、互いに理解し、共に支え合うことを大切に行動できる。 2 社会で必要なルールやマナーを身に付け、地域社会や職場から信頼される。 3 基礎的・基本的な知識や技術を修得し幅広い分野で活躍することができる。 4 自分で課題を見つけ、それを解決し、将来にわたって学び続けることができる。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

(評価規準 A:目標を大きく上回っている B:おおむね目標に達している C:目標に達していない)

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	基本的な生活習慣の確立	・年間遅刻回数の減少(前年度比-5%) ・進んで挨拶しようとする生徒の割合90%以上	・昨年度の総遅刻回数の-5%減 ・進んで挨拶しようとする生徒の割合85%以上	・本年度の一人あたりの遅刻回数は昨年度の一人あたりの遅刻回数の45%(55%減)となった。しかし、1人当たりの欠席数は昨年度より17%増えている。 ・自分から進んで挨拶しようとしている(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は94%であった。	A	・遅刻者が減ったことは評価できるが、欠席が増加したことに対しては何かの対応が必要と考える。	遅刻せずに登校時間を守る生徒が増え遅刻は大幅に減少した。しかし、様々な理由から欠席が増加した生徒もいる。長期欠席者を減らすため生徒に関する気づきをより一層大切にし、情報を把握して迅速に対応することが重要である。スクールカウンセラーとの連携も深める。
	運動に対する意識の向上	・体育の授業に意欲的に取り組む生徒の割合95%以上 ・運動が好きな生徒または定期的な運動習慣のある生徒の割合80%以上	・体育の授業に意欲的に取り組む生徒の割合90%以上 ・運動が好きな生徒または定期的な運動習慣のある生徒の割合70%以上	・授業アンケートで体育の授業に意欲的に取り組んでいる(よく当てはまる、やや当てはまる)と回答した生徒は85%であった。 ・運動することは好きである(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は76%であった。 ・定期的に運動する習慣がある(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は54%であった。	B	・夜間定時制高校ということで生活のリズムを整えにくい面があるかもしれないが、食生活の乱れて健康を害することが心配である。食生活の改善について粘り強く指導を続けてほしい。	体育の授業や球技大会等を通じて運動することの楽しさを理解させたり、運動部に所属する生徒の活動がより活発になるようにする。
	望ましい食習慣の確立	・食生活の大切さを理解している生徒の割合80%以上 ・一日規則正しく3食食べる生徒の割合80%以上	・食生活の大切さを理解している生徒の割合75%以上 ・一日規則正しく3食食べる生徒の割合70%以上	・家庭科の授業や調理実習等をおして食生活の大切さを教えている。 ・食生活の大切さを理解している(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は89%であった。 ・規則正しく一日3食食べている(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は30%であった。	B		保健だよりに食生活の改善を促す記事を取り上げた際、各担任からも食生活の大切さを説明する。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業で興味・関心が高まると感じている生徒90%以上	授業で興味・関心が高まると感じている生徒85%以上	授業で興味・関心が高まる(よく当てはまる、やや当てはまる)と回答した生徒は87%であった。	B		電子黒板や端末の活用など指導方法の工夫により、生徒自ら学習に取り組む機会が増えた。今後も教員間で情報共有しながら授業研究をしていく。
	ICTを活用した教育の推進	・ICTを活用した授業ができる教員の割合90%以上 ・ICTを活用して学習できると感じている生徒の割合90%以上	・ICTを活用した授業ができる教員の割合80%以上 ・ICTを活用して学習できると感じている生徒の割合80%以上	・教員については、授業にICTを活用して指導する能力を問う調査で、できる、ややできるという回答が72%であった。 ・生徒については、ICTを活用して学習できる(そう思う、だいたいそう思う)という回答が84%であった。 ・2学期から1、2学年の教室に電子黒板が整備されたので、多くの授業で活用されている。 ・BYOD端末は課題の配信や提出、授業の振り返りシートの提出等、科目によって利用の仕方は様々だが活用している科目が増えている。	B	・ICTを活用した学習について、生徒のできるという回答の割合に対して教員のできるという回答の割合が低い。教員もICTの活用により積極的になるよう、何らかの取組が必要である。 ・避難訓練をはじめ生徒の安全を守る取組を積極的に実施している。今後も工夫して生徒の安全に対する意識付けをお願いしたい。	端末やソフトウェアの操作方法に関して教員間での情報交換を促すとともに研修の機会を設ける。授業等で端末を操作する機会を増やし、教員も生徒も操作に慣れ、今後も端末を活用できるよう学習方法の工夫に務める。
	交通安全・防犯・防災教育の推進	年間2回以上講演会や訓練等を実施	講演会や避難訓練を実施する。	・地震による火災を想定し、シェイクアウト訓練、通報訓練、避難訓練を実施した。また、水消火器による消火訓練を実施した。事後指導のためのHRを実施した。 ・薬物乱用防止教室を6月に実施した。また、闇バイトや歩きスマホによる事故に対する注意喚起のプリントを作成し配布した。 ・1、2学期の始めに自転車及びバイクの一斉点検を実施し、交通安全についても呼びかけた。	A		夜間定時制ということで外部講師を招いての講演会等は実施しにくい状況ではあるが、できるだけ協力を求めたり、生徒に注意喚起する資料を作成し配付することで担任から指導してもらいやすくしたりする。
	教員の働き方改革	1ヶ月の超過勤務時間45時間以上の職員0人	1ヶ月の超過勤務時間45時間以上の職員0人	今年度2月までで、1ヶ月の超過勤務時間45時間以上の職員は0人	A		今後も適切に業務を分担したり、勤務時間外の出張等がある場合は可能な限り勤務時間の割り振りをしたりすることで超過勤務が増加しないよう努める。

3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップ等の就労体験の充実	インターンシップをはじめ、在学中に就労を体験する生徒の割合80%以上	・在学中に就労を体験する生徒の割合70%以上	在学中に仕事やアルバイト等の就業体験をしている生徒は78%であった。	B	<p>・進路指導に対する満足度は高いようだが、在学中に進路先を決めることができないまま卒業する生徒もいる。様々な課題を持った生徒が多いため、無理に進路先を決めるのではなく、将来がある程度見通せるような状況で卒業できるよう取り組んでほしい。</p> <p>キャリアパスポートの取組を継続していくとともに、各授業においても振り返りの機会を作ることで、自分の成長を感じ取ることができるようにする。</p> <p>本年度は就職希望の生徒4名が内定した。進路決定がプレッシャーになる生徒もいるので生徒の希望や特性を把握し、個々に応じた進路指導を進めたい。1～3年生の生徒が卒業後の進路を意識して学校生活を送るよう講演等を通じて呼びかける。</p>
	キャリア教育の推進	キャリアパスポートの活用率の向上	日々の活動による自分の変化や成長を感じている生徒の割合70%以上	・学期末にその学期を振り返り記録させている。 ・自分の変化や成長を感じている(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は73%であった。	B	
	進路実現に向けた取組の推進	・進路に関する講演会等を年間3回以上開催 ・学校が進路実現を積極的に支援してくれると感じている生徒の割合95%以上	・進路に対する意識向上、社会人としてのマナー修得に向けた講演等を企画する。 ・学校が進路実現を積極的に支援してくれると感じている生徒の割合90%以上	・1学期には進路希望調査と適職・適学テストを実施した。2学期は進路HRで就職試験の一般常識の問題を解かせたり、外部講師による講演を実施したりすることで、進路に向けて有意義な高校生活を送るよう意識付ける取組をした。1月にも外部講師を招き、1～3年生対象に講演会を開催した。 ・学校は進路実現を積極的に支援してくれる(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は98%であった。	B	
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」の学習成果の蓄積	郷土や地域に関する興味関心が高まったと感じている生徒70%以上	・奈良TIMEは各教科科目に割り当てて実施しており、科目に応じた視点から奈良について学ぶ。 ・奈良の伝統、文化等への興味関心が高まった(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は70%であった。	B	<p>今後も各教科等で郷土の伝統や地域の特性を考える学習内容を充実させ、理解や関心が高まるようにしたい。 本年度入学生からは4年次の課題研究で「奈良TIME」を実施する予定。</p> <p>昼の時間帯にアルバイト等をしている生徒が多いため、企業見学について案内しても希望者が出にくい状況があるが、生徒への案内方法を工夫し、参加を促すようにする。</p> <p>幼稚園の運営団体が変わったため、交流の継続が危ぶまれたが新たな形で実現できた。今後も積極的にアプローチし交流を深めたい。</p> <p>今後も活動を継続し、より多くの生徒が地域貢献を意識できる機会としたい。</p>
	地域との連携・協働の推進	コミュニティスクールの積極的な運営	コミュニティスクールでの意見を学校運営に反映させる。	・第1回の学校運営協議会で人材育成において学校、企業、地域が連携していけるような取組が必要であるとの意見をいただいた。特に企業では人材不足が大きな課題で、企業のアピールにつながるよう連携を深めていきたいという意見もいただいた。 ・企業見学の案内を生徒にしているが、希望する生徒がいなかった。	C	
	地域に貢献する人材の育成	地域の幼稚園や保育園等との交流活動等を年間2回以上実施	幼稚園や保育園のニーズを把握し、生徒が主体的に活動できる新たな取組を始める。	・交流をしていた幼稚園が本年度から私立となったため従来とは違う取組を模索し、ゴミの分別をしやすく色分けしたゴミ箱を生徒会で製作し寄贈した。 ・有志の生徒で製作したパズルやフェルト製の玩具を寄贈した。 ・幼稚園から園児たちのお礼の言葉が書かれた寄せ書きをいただいた。今後の取組の励みとなった。	A	
	地域に貢献する人材の育成	通学路及び学校周辺の清掃活動等を年間3回以上実施	生徒会役員及び有志で各学期に1回、通学路等の清掃活動を実施する。	11月の球技大会の前と第2学期、第3学期の終業式前に通学路の清掃を実施した。	A	
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	一人一人の個性を認め合う生徒の育成	一人一人の個性を尊重することが大切であると感じる生徒の割合90%以上	一人一人の個性を尊重することが大切であると感じる生徒の割合90%以上	・生活体験発表会を実施、生徒一人一人の考えや思いについて知るきっかけとなるよう取り組んだ。 ・一人一人の個性を尊重することは大切(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は97%であった。	B	<p>過去の生活体験作文を読んだり、発表会で他の生徒の発表を聞くことでお互いの違いを認識したり、それぞれの思いを理解したりしていけるよう取組を続けていきたい。</p> <p>実施したアンケートの分析や、本年度立ち上げたGoogle Formsを利用した相談窓口を利用し生徒の小さな変化を見逃さないようにしたり、本音を知ることで対応策を講じるようにしたい。</p> <p>今後も身近な人権問題を取り上げ、正しい知識と理解をさらに深めていきたい。 次年度も講演会や研修会を実施し、教員の資質向上に努めたい。</p> <p>相談窓口など新たな取組も始めたが、まだ、利用者はない。一度紹介したが、忘れていた生徒もいると思われるので定期的に窓口の存在について紹介していく必要がある。</p>
	学校いじめ防止基本方針に基づく取組の推進	学校は安心して居心地良く過ごせる場所であると感じている生徒の割合90%以上 いじめのアンケート等を年間2回以上実施	・学校は安心して居心地良く過ごせる場所であると感じている生徒の割合85%以上 ・いじめのアンケート等を年間2回以上実施	・学校は安心して過ごせる場所だ(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は86%であった。 ・学校は居心地良く過ごせる場所である(そう思う、だいたいそう思う)と回答した生徒は73%であった。 ・3回のアンケートの結果、いじめの事象と認められるものはなかった。	B	
	人権教育の推進	「人権教育推進プラン」に沿った取組の推進 人権講演会を年間1回以上、職員研修を年間1回以上開催	人権講演会や職員研修を年1回以上企画する。	・人権LHRで部落差別問題に関するDVD教材を視聴させ、事後指導としてワークシートに取り組みさせた。担任対象の事前研修を実施した。 ・外部講師を招いて部落差別問題に関する講演会を実施した。 ・夏期休業中に「愛着障害」についての教員研修を実施した。	A	
	特別支援教育の推進	・支援が必要な生徒の情報共有の機会年3回以上 ・支援が必要な生徒全員の個別的教育支援計画作成	・支援が必要な生徒の情報共有の機会を作る。 ・支援が必要な生徒全員の個別的教育支援計画作成	・入学前に中学校訪問や電話での聞き取りをして支援や配慮が必要な生徒の情報をまとめ、新年度に職員会議で情報共有した。 ・10月に情報交換会を実施し、各担任から心配な生徒について状況報告をした。 ・生徒の相談窓口のフォームを作成し、BYOD端末やスマートフォンから気楽に相談できるような取組を始めた。 ・中学校から引き継いだ資料等に基づき個別的教育支援計画を作成している。	B	

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

<p>・生徒アンケートで本校に入学して良かった(そう思う、だいたいそう思う)という回答が95%であった。 ・保護者アンケートで本校に入学させて良かった(そう思う、だいたいそう思う)という回答が100%であった。 ・生徒、保護者とも本校に対する満足度は高いが、昨年度と比較して欠席者が増えており、学校が居心地良く過ごせる場所であると感じている生徒の割合が昨年度よりも減少した。一人一人の生徒と向き合い見守ることで、より安心して学校生活を送れる環境づくりを目指すとともに、多様な課題を抱える生徒に対し、きめ細かい配慮や支援ができるよう取り組んでいかなければならない。 ・本年度は学校行事や生徒会活動など、新型コロナウイルスの流行以前の取組ができるようになり、活発に活動する様子が見られた。今後も多様な他者と協働する機会を充実させていく。</p>
--